

# 特別支援学校（知的障害）高等部における 軽度知的障害のある生徒に対する指導内容の検討

○工藤傑史<sup>1</sup> 菊地一文<sup>1</sup> 井上昌士<sup>2</sup> 猪子秀太郎<sup>3</sup> 涌井恵<sup>1</sup> 大崎博史<sup>1</sup> 小澤至賢<sup>1</sup>  
 (国立特別支援教育総合研究所<sup>1</sup> 千葉市立第二養護学校<sup>2</sup> 鳴門教育大学附属特別支援学校<sup>3</sup>)  
 KEY WORDS: 特別支援学校高等部 軽度知的障害 教育課程)

## 1 目的

近年の特別支援学校における知的障害のある児童生徒の増加傾向は著しく、その中でも軽度知的障害の生徒が増え、高等部全体の中で占めるその割合も多くなってきている。卒業後を見据え、社会的及び職業的自立の促進を踏まえた軽度知的障害の生徒の教育的対応の検討が、大きな課題となっている。本研究では、知的障害の状態が軽度（以下、「軽度知的障害」と記す。）といわれる生徒に対する必要性の高い指導内容を検討することを目的とした。

## 2 方法

全国特別支援学校知的障害教育校長会に加盟する高等部のある本校、分校、分教室、校舎等を対象とした、インターネットによる質問紙調査を実施した。平成22年度に対象校590校に実施した調査データ（回収率75.1%）と、平成23年度に620校を対象に実施した調査データ（回収率71.8%）及び実地訪問インタビューによる指導事例調査のデータを用いて、軽度知的障害のある生徒に特に必要と思われる指導内容を明らかにした。

## 3 結果

平成22年度調査では、軽度知的障害のある生徒に必要な指導内容として、「対人コミュニケーション能力」（343件）が最も多く、「社会生活のルール」（303件）、「基本生活習慣」（172件）、「職業能力の育成」（160件）が挙げられた（図1）。

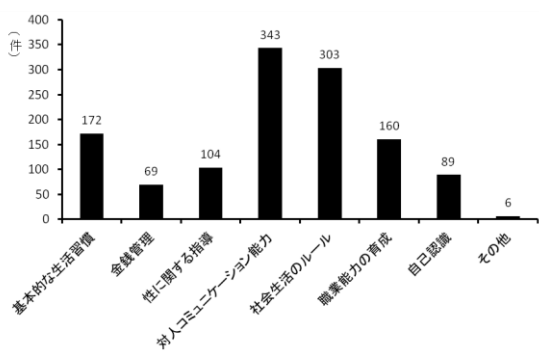


図1 軽度知的障害のある生徒に必要な指導内容(3つまで選択)

平成23年度調査では、前述の「対人コミュニケーション能力」、「社会生活のルール」、「基本生活習慣」、「職業能力の育成」の4つのキーワードについての具体的な指導内容を「授業で取り上げている必要性の高い内容」と「取り上げる必要性があるが、指導が難しい指導内容」に分けて設問し、その結果、(a)授業での取り上げが多く、指導が難しい内容として挙げられていない内容は、「挨拶、返事、報告、連絡、相談」「身だしなみ」等、繰り返しの指導によって定着が可能な技能に関する内容であった。(b)授業での取り上げが多く、指導が難しい内容としても挙げられている指導内容は、「相手の気持ちを考えて話す」「場や相手に応じた言葉遣いや挨拶」「携帯電話の適切な使い方」等、状況に応じた判断やセルフコントロールに関係した内容であった。また、(c)授業で

の取り上げが少なく、指導が難しい内容として挙げられた指導内容は、「職場での会話、世間話」「お金の貸し借り」「働く意欲」等、指導場面の設定が難しいものや技能として定着させることが難しい内容等であった。

4つのキーワードについて、研究担当者の協議により、「授業で取り上げている必要性の高い内容」と「取り上げる必要性があるが、指導が難しい指導内容」について、これらに重複する内容の整理と文言等の見直しを行い、22項目の「軽度知的障害のある生徒に必要な必要性の高い指導内容（以下、「必要性の高い指導内容」と記す）（表1）として整理した。

表1 軽度の生徒に必要な必要性の高い指導内容

キーワード	No	必要性の高い指導内容
対人コミュニケーション能力	1	自分の気持ちや考えを言葉で相手に伝える。
	2	相手(人)の話を聞く。
	3	挨拶、返事、報告、質問、相談をする。
	4	相手の気持ちを考えて話す。
	5	職場の人と世間話などの会話をする。
	6	場に応じた言葉遣いをする。
社会生活のルール	1	時計などを使って時間を守る。
	2	公共施設、交通機関の利用の仕方やマナーを身に付ける。
	3	場に応じた服装、身だしなみをする。
	4	自分の役割を果たす。
	5	携帯電話の適切な使い方やマナーを身に付ける。
	6	金銭や物の管理・貸し借りのルールを身に付ける。
	7	適切な男女交際の仕方を身に付ける。
基本的な生活習慣	1	ロッカーや机など身の回りを整理する。
	2	夜更かしをせず、規則正しい生活をする。
	3	休日など余暇の過ごし方を身に付ける。
	4	バランスのよい食事を摂る。
	5	身体を清潔にする習慣を身に付ける。
職業能力の育成	1	指示やアドバイスを聞いて、品質の高い製品を作る。
	2	正しく道具を使って、安全に作業する。
	3	働く意欲を持つ。
	4	自分の職業適性を理解する。

(「」はH23年度の調査において、「教えることが難しいと感じる内容」から整理された指導内容)

## 4 考察

「必要性の高い指導内容」の教育課程への位置付けについては、各特別支援学校において教育課程の全体バランスを考慮した上で、各教科において重点的に指導したり、各教科等を合わせた指導において取り入れて指導したりすることが考えられる。また、指導においても、関連する内容を並列的に指導するよりもそれらを抽出し、必要に応じて単元や題材等に有機的に統合、配列することが効果的であると考えられる。

今後の課題としては、本研究によって明らかになった22項目の「必要性の高い指導内容」を基に、教育課程における位置付けの工夫やより効果的な指導方法について、学校現場での実践研究を積み重ねる必要があることが挙げられる。

## 付記

本研究は、国立特別支援教育総合研究所重点推進研究「特別支援学校(知的障害)高等部における軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する研究」の一部として取り組んだものである。

(KUDO Takeshi, KIKUCHI Kazufumi, INOUE Masashi, INOKO Hidetaro, WAKUI Megumi, OSAKI Hirofumi, OZAWA Michimasa)